

平成 28 年度 第 1 回花巻城跡調査保存検討委員会会議録

日時 平成 28 年 10 月 3 日（月）午後 2 時～午後 16 時 00 分

場所 花巻市石鳥谷総合支所 3 階 3-2・3-3 会議室

出席委員 高橋信雄委員、関豊委員、熊谷常正委員、室野秀文委員、中村良幸委員
(全委員出席)

オブザーバー 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課 佐藤淳一文化財専門員

報道関係者 1 名

傍聴者 1 名

事務局 花巻市教育委員会 佐藤勝教育長、市村律教育部長
文化財課 酒井宗孝文化財課長、村田豊隆埋蔵文化財係長
菊池賢上席主任
花巻市博物館 高橋静歩主事

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 委員長及び副委員長の選任

4 報 告

(1) 花巻城三之丸跡「伊藤家」の取得について

(2) 花巻城三之丸跡新興製作所跡地の試掘調査結果について

5 協 議

平成 28 年度花巻城跡内容確認調査の実施について

6 そ の 他

7 閉 会

会議内容の概要は、以下の通り。

(司会：村田係長) お疲れ様でございます。会議に先立ちまして、委員の皆様には佐藤教育長から委嘱状を交付いたします。本来であれば春先にお渡しするべきところでございますが、第1回の会議の場をお借りいたしましてお渡しさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

～ 委 嘱 状 交 付 ～

本日オブザーバーとして岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の佐藤淳一文化財専門員にご出席いただいております。ここでご紹介させていただきます。

続きまして、本日出席しております教育委員会の職員をご紹介します。

教 育 長 佐藤 勝 (さとう まさる)

教育部長 市村 律 (いちむら おさむ)

文化財課 課長 酒井 宗孝 (さかい むねたか)

文化財課 埋蔵文化財係長 村田 豊隆 (むらた とよたか)

文化財課 上席主任 菊池 賢 (きくち さとし)

博 物 館 主 事 高橋 静歩 (たかはし しずほ)

1 開 会

(司会) それでは、ただ今より平成28年度第1回花巻城跡調査保存検討委員会を開会いたします。花巻市教育委員会教育長 佐藤勝よりご挨拶を申し上げます。

2 あいさつ

(佐藤教育長) 週初めの大変お忙しいところ、そして遠路ご出席賜りありがとうございます。また、昨年度は7月と3月に開催いたしました、沢山のご指導を賜り感謝申し上げます。また、本日もオブザーバーとして県教委の生涯学習文化課・佐藤専門員様にご出席いただき、ありがとうございます。

さて、今年で2年目となりますが、是非一貫してご指導いただきたいということでご承引いただきました。本日また改めまして委員長さん、そして副委員長さんの選任をお願いしたいと思います。

本日は3件についてご報告いたし、またご指導・ご協議をいただきたいと存じます。1件目は、この8月末に市で取得いたしました「三之丸伊藤家」の保存について、2件目は、

三之丸の一面を占める新興製作所跡地についてでございます。3月以降の経過につきましてはこの後ご説明申し上げますが、現在7つあった工場の建物が基礎部分を残して解体された現状にあります。解体に伴って、堀の形状確認のため、鳥谷ヶ崎神社の東側の下の場所の試掘を行いました。そして、上部平坦地につきましては、所有者メノアース株式会社から売買交渉権を得ている新興製作所跡地解体工事受託者である株式会社光より、花巻市に対して有償譲渡の申し出がございました。このことについては、本日の資料の4-3の中で市の方針として幾つかの条件をもって回答させていただきました。その一つの検討課題として、本館跡・別館跡の底地を除く試掘調査を行いたいということで、その件をお示ししたところ、協力の申し出をいただき、早速試掘をいたしました。内容的には、11本のトレンチを設定して進めたわけでございますが、遺構と僅かな遺物が出土したというふうな状況であります。本日は、この結果についての文化財的な価値、あるいは今後の取り扱いについてご意見・ご指導を賜ればと存じます。

それから3件目は、これから実施予定の二之丸。武徳殿の東側にある南御蔵付近の内容確認についてであります。すでに一部試掘等をして土層確認等をしておりますが、本日はその状況をご報告致しながら、今後の調査についてご意見・ご指導を賜ればと存じます。

昨年の花巻城の時鐘、それから今年の『御次留書帳』が県の文化財指定を受けてございますが、報告・協議を予定しております3件以外についても、今後の花巻城跡の保存、あるいは調査について配慮すべき点ございましたら、併せてご指導をいただければと存じます。どうぞ宜しくお願い致します。

(司会) それでは次第に沿って進行をさせていただきます。3の委員長及び副委員長の選任でございますが、選任されるまで私の方で進行をさせていただきます。

3 委員長及び副委員長の選任

(司会) それでは、委員長の互選をお願い致しますが、いかがでございましょうか。ご意見のございます方はお願いしたいと思います。

(関委員) 留任でお願いしたいと思います。

(司会) 留任というお声がございましたが、いかがでございましょうか。

(異議なしの声)

(司会) それでは委員長には花巻市博物館の高橋信雄館長にお願いしたいと思います。次に副委員長の互選でございますが、こちらはいかがでございましょうか。

(関委員) 留任でお願い致します。

(司会) 留任というお声でございますが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

(司会) それでは副委員長には盛岡大学の熊谷常正先生にお願いをしたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。それでは、選任されました高橋委員長さん、それから熊谷副委員長さんからご挨拶を頂戴したいと思いますので宜しくお願い致します。

(高橋委員長) 高橋でございます。引き続きということですが、今年度いよいよ実際に調査が始まったということで、これからいろんな事が出てくると思いますが、全力をもって取り組んで行きたいと思っておりますので、皆様のご指導を宜しくお願いしたいと思います。

(熊谷副委員長) 高橋委員長を補佐して、この会が少しでも多くの成果を上げて、市民の方々に還元できるような形でまとめて参りたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

(司会) ありがとうございます。それでは4の報告に入りますが、ここからは、花巻城跡調査保存検討委員会設置要綱の第4条第2項の規定に依りまして議長を高橋委員長にお願いしたいと思いますので、どうぞ委員長席の方へお願いいたします。

(高橋委員長) それでは、協議に入らせていただきますが、その前に、花巻市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、本会議を公開することにご異議ありませんか。

(委員) 異議なし。

(高橋委員長) 無いようですので、公開ということで進めさせていただきたいと思っております。それでは早速ですが、4の報告(1)花巻城三之丸跡「伊藤家」の取得について報告をお願い致します。

4 報 告

(1) 花巻城三之丸跡「伊藤家」の取得について

(事務局から説明) 資料No.3

(高橋委員長) ただ今、伊藤家の取得について説明を受けたわけですが、ご意見等を伺いたいと思います。いかがでしょうか。これは、これから今後のことについて調査をするということですね。重要な建物だということで、前にも意見を出しているわけですがけれども、

今後も「指定に向けて」というふうにあります、さらに環境整備をしていくということですので。よろしいでしょうか。それでは次（2）ですが、花巻城三之丸跡新興製作所跡地の試掘調査結果について報告をお願いいたします。

（2）花巻城三之丸跡新興製作所跡地の試掘調査結果について

（事務局から説明）資料No.4 および資料No.4 参考

（高橋委員長）今、花巻城の三之丸跡地の試掘調査結果について報告を受けたわけですが、大きくは2つあったと思いますが、別々に質問を受けたいと思います。下堀の方の調査の件についてご意見等をいただきたいと思います。

（熊谷副委員長）先ほどのスライドで拝見した分の、下にさらにグライ化した土が、スライドの先ほどの赤い（線で）堀の底面が入った…それですね。それを見ると下にまだグライ化した土があるんですね。堀の底面だというふうにしてラインを引いた下にですね、グライ化した土が出てきている。いわゆる堀の底面として捉えたのは、花巻城時代の堀の上面の可能性はないか。その堀がですね、埋められて平坦化して。例えば昭和23年の米軍撮影写真によると、下堀は当時低地を利用した水田面、その水田面の可能性はないか。ということは、堀の本体は更にその下にはないかということですね。で、先ほどの断面図の形状を拝見しますとですね、まあ確かに箱堀状の形態にはなっているのですが、規模がでかすぎるのではないかと。底面で20mあるような堀。で、上面までの、段丘崖を使った上面までの落差を見ても、こんなに、要するに花巻城時代にも区画する溝として、底面が20mを越すような巨大な堀で囲まれていたのだろうか。花巻城の図面にあるのは、あくまでも上面の下堀の面であって、その下になるともうちょっと細くなるということを見ると、今確認した下堀のエレベーション図で表されたラインというのは、戦後まもなくの水田として利用されていた時の面を表しているんじゃないかと思うんですが、どうでしょうか。要するに下堀の本体は、この下にあると。

（酒井課長）一番東側のトレンチですが、盛り土が酷く、なかなか状況が最初分かりませんでした。それでも掘削している中で土層の変化を見たということをごさいます。同じレベルで…真ん中のこのトレンチでございしますが、この一番下がですね、多分イギリス海岸を形成しておりますシルト岩層なんですね。ですからこれは確実に底であろうと。それまでは、その直上にグライ化した植物遺存体を含むねっとりした土の下に泥岩層が出てまい

りましたので、そのレベルが大体 2m80 cm という同じレベルでございましたので、これが底であろうということを推定したということです。

(関委員) 要するに地山ということですか。

(酒井課長) 地山です。

(熊谷副委員長) 要するに三紀の層だという。

(酒井課長) いえ、宮沢賢治はこの層の上に洪積の段丘が載るということで、一つ古くしたわけですが、花巻市博物館でゾウの足跡が出た時にですね、フィッシュトラック法で年代を測定しましたところ 160 万年。

(熊谷副委員長) ぎりぎり四紀になるという。

(酒井課長) あの、鮮新世ではない、ということが分かりました。

(熊谷副委員長) それに相当する壁面が…。

(酒井課長) 底面が確認された。

(熊谷副委員長) 確認していると。

(中村委員) さっきのグライ化した下に水色みたいな地層があったじゃないですか。あのちょっと上に、こっち側（東側）の縁には出ないのですが。お城の、要するに壁面の下のあたりに行くと、中に植物のピート堆積が見られるのですよ、ちょうど直上くらいに。だから多分、良いんだと思うんです。

(熊谷副委員長) 図面上で言えば、下堀は結構規模が大きな堀なんですけれども、それにしても底面がね。箱堀の底面が 20m を超すような巨大な堀っていうのは、すごい堀ですよ。

(中村委員) まあ、そうですね。前の北上川が巻いてた場所ですからね。実際にはどういう風な形で造ったのか、あるいは溜池状になっていたのをそのまま生かしているのか、どうなのかわからないですけども。

(熊谷副委員長) はい、分かりました。じゃあ、まあ底面で間違いないだろうと。

(高橋委員長) 結局、これの東側は分からない訳？

(酒井課長) 明確な立ち上がりは、中々…。

(熊谷副委員長) むしろそれが、要するに浸食面を利用した段丘崖で、片側がちょっと陸化した状態であれ何であれ、層的には古い層は無いという、形成されていないということだね。

(酒井課長) 予想の時には、東高校（花巻東高校）時代の、谷村学院時代のグラウンドであ

りまして、写真の左側（東側）は排水堰なんですね。それで、ちょうど肩の部分が壊されているんですが、予想としては砂礫層を掘り込んで傾斜になっているはずだということでやったんですが。中々、昔の堰が邪魔しまして、そこを確認できなかったという弱みはございます。

（熊谷副委員長）はい、わかりました。

（高橋委員長）あと、この下堀についてはございませんか。それでは、上の方ですね、調査。上部平坦面試掘調査についてご意見等、ご質問等があればお願いしたいと思いますが。

（熊谷副委員長）はい。（トレンチ）⑪で確認した黒色土の、自然堆積じゃないかという黒色土がありますが、その中から遺物は出ませんでしたか。

（菊池上席主任）出ておりません。

（熊谷副委員長）その、この黒色土の年代を推定する根拠はちょっと無い…。

（菊池上席主任）無いですね。

（酒井課長）目視的なものでございますが、本当に、いじられてない自然の感じでございます。

（熊谷副委員長）あの、例えばさっきの⑧・⑨・⑩のトレンチを設定した場所と、この⑪の間でレベル差ってどれぐらいありますか？そんなに無い？

（酒井課長）そんなにありません。

（熊谷副委員長）ほとんど平坦。ということは、⑪の方まで行けば自然地形が残っている。そうなってくると、⑧・⑨・⑩で確認された堀状の遺構っていうのが、変なふうにカーブしている。

（高橋委員長）変だけれども、先端部を切るような。

（熊谷副委員長）切るような形でカーブしている。いいんじゃないですか、と思うんですが。

（高橋委員長）あの私、難しいなと思ったのは、これ時期が。花巻城の調査なんだけれども、花巻城の時期と、その前の時期と、下手すると安倍氏までいく段階と、何段階かが意外と残っている、部分的に残っている。

（熊谷副委員長）まさに⑧・⑨・⑩の堀はですね、古い可能性を秘めているような気がするんですけども。

（高橋委員長）ちょっと離れた所ですけども、須恵器も出ているし。となると、この堀自体は古くみているのですか。今、そこまでいかない？

(酒井課長) まだ難しいところがございます。

(熊谷副委員長) ちょっと、このセクション図で説明してくれませんか。

(酒井課長) まず基本層序でございますが、これから、しっかり見直していきたいと思えます。今までよく、何層・何層と言った…、今の表土でございます、草が生えている。で、2番目に来るこの層を今までは花巻城等の時代の層であろうということにしておりました。で、この3番目に来る層、これが中世の遺物を含む層である。前回の委員会の時でもこの層が一番問題になるのだということになりましたけれども、で、いわゆる粘土層になって、ここまで剥がさないと遺構は見えてこないということでございます。先ほどの堀のセクションでございますが、これをきちんと定義して、どういうものかということを確定しなければいけません、いわゆるこの層(Ⅲ層)が覆っている可能性があるというふうに考えました。

(熊谷副委員長) それがⅢ層になるんですか、この図で言えば。

(酒井課長) Ⅲ層。

(熊谷副委員長) Ⅲ層なんですね。少なくともこの土層のセクションを見る限り、自然堆積状の埋め戻し方をしているように思うんですが。その状況としてはどうだったんですか。埋め戻された、人為的に埋め戻されたのか。微妙？

(酒井課長) 微妙です。私は、1層くらいは埋め戻されたかなと。

(熊谷副委員長) 1層は、可能性はあるね。で、1番下の方でグライ化した土とかがあった。

(酒井課長) 6層というのは、割としっかりした自然堆積の層であります。で、4層というのがですね、非常に粘土ブロックを沢山含む層でございます。一概に粘土ブロックを含むから、人が捨てたということは言えないかもしれませんが。全体として、私は微妙だと。ただし、いわゆるこの層(Ⅲ層)が上を覆っているということではないかと。

(関委員) かなり古くなる可能性があるかと。

(酒井課長) ある可能性もあるのではないかと。

(関委員) 須恵器は、何世紀ころの須恵器ですか。

(菊池上席主任) 小片なので、いささか分からないですね。

(熊谷副委員長) 甕？

(酒井課長) 甕ですね。叩き目をもつ甕ですね。あまり焼成が良なくて赤い甕です。

(熊谷副委員長) さっきのその写真で言えば、この6ページの第4図のトレンチの断面図で

見ると、2層に当たる粘土ブロックの層がありますよね、白っぽい。これは粘土ですか？

(菊池上席主任) 粘土だと思います、こういったもの(地山)に近い。

(熊谷副委員長) そういった下の粘土。

(酒井課長) 基本的にここの地形の中にシルトというのは、含まれません。

(熊谷副委員長) 火山灰状の、そういったものは無い？

(酒井課長) 無い。上のザクザクした土はシルトと言うんでしょうけれども。柳之御所と同じような土が…。

(高橋委員長) それと、もう一つ。③のトレンチの所に出てきた竪穴状の建物跡みたいなものは、このⅢ層の中を切っている？

(酒井課長) セクションどうでした？

(高橋委員長) いや、これ自体がちょっとね。厚かったり、薄かったりするからだけれども。そうすると、もしかすると竪穴状の建物跡は、もしかすると花巻城以前の建物で、この堀よりは新しい。

(熊谷副委員長) ただ、さっきのその写真で言えば、ちょうどね白線で囲った黄褐色と黒褐色のラインの所、そのラインの所ちょっとグライ化していませんか？黒っぽくなってませんか？

(酒井課長) そこ、炭化物です。

(熊谷副委員長) 炭化物が入っているのね。これは、かなり上を削平されて、ある程度遺構の覆土の上面が削られた段階で出ている写真ですよ。

(酒井課長) いわゆる、さっきから問題になっている層が、この層になります。で、結局この層を剥がさないと全ての遺構が見えてこないという。

(熊谷副委員長) 少なくとも今、遺構としてやっているものの立ち上がりというか、遺構の本来的な掘った面っていうのは、ずっと上だということですよ。

(酒井課長) その可能性は高いと思います。

(熊谷副委員長) 要するに、こういった竪穴状遺構の自然堆積した部分を切ったので、壁面に近い方の埋土と、真ん中の方に溜まっているところの埋土の違い。で、その間に炭化物が入る層があるということで、掘り方の面はもうちょっと高いということで。そうすると、いわゆる中世段階に位置づけられる層から掘り込んでいるというふうに見て良いんだね。この深さどれ位でした、ここは掘ってないのですか？

(菊池上席主任) 掘っていないので、サブトレンチは入れていないので分からないですけれども。

(関委員) これから断ち割るとかっていう話ですか。

(菊池上席主任) 埋め立ててしまったので。

(熊谷副委員長) もしかすると消失した何か、廃棄の場みたいな。ただ、やっぱり断片的だな。それと、さっきも話あったように、この①番・③番の方は、花巻城時代の武家屋敷群に伴う遺構が残存している場所とも考えられる。

(酒井課長) はい。ちょうどこの部分がですね、松岡勇次・中野昇平の屋敷跡があったと言われている場所でございますので、それに関わる可能性がある。

(熊谷副委員長) 例えばですね、この絵図でいう松岡さん家の、東端の下堀に向かう斜面の所に沢状の表現がありますよね。この沢状の表現の部分は、先ほどの⑧トレンチのラインと一致しませんか？

(中村委員) するんです。(一致) しそう。私もこの図面を見て、多分これ、沢か堀を埋め立てた跡だろうという推測をして、大体この辺に来ている。だから多分ね、合うと思います、ラインとして。だからこっちに行ってみただけでも護岸してて分からなかったものね、コンクリートでここを切ってるんです。でも、まわってみたら、位置的にはほぼこっちに行きそう。このあたりです。

(熊谷副委員長) 例えば鳥海とかなんかも、みんなその、段丘崖が開いてくるから、結局そこに水流れると沢状の地形が形成されますよね。それに相当する可能性はないだろうか。

(中村委員) 他の絵図面でも描かれている。

(関委員) これ全部、そうだ。

(熊谷副委員長) うーん、そうそうそう。一本じゃないという。

(中村委員) 推定ですけども、これ、合っていると思います。さっきのライン。

(室野委員) あと、堀が埋められた場合であっても、埋めた所は崩落が起きますよね、あの段丘崖なんかですとね。ですから、一旦埋められた堀が、後で崩れるということも。出口のところはですね、崩れるようなケースも相当あると思います。

あと、この堀の断面形状は、非常に壁の勾配が緩やかなんですね。これ、一概には言えないんですが、時代の古い堀っていうのは、壁の勾配が緩い傾向があります。端的に柳之御所あたりの堀と戦国時代の城館の堀と比べてもらえれば、すぐ分かるんですが。戦国時

代の城館の堀であれば、「菓研堀」であつても断面が「陥し穴状遺構」に近いような掘り方を
するものもあるぐらいです。で、あの、柳之御所だとかですね、鳥海なんかの堀ってい
うのは結構大きい堀を掘つてあるんですが、壁の形状はそれよりも緩やかということがあ
るので。あの、形態的にはこれ、もしかしたら古い堀になる可能性というのは、あるのか
など。いつ頃かは分かりませんが。

もう一つ気になるのは、ちょうどこれ、出た場所がですね、一番大きい建物・本館です
か。本館に近づいた所で出てきちゃっているんで、本館の下にこの堀と並行するような堀
が…。

(関委員) うん、複数。

(室野委員) もしかすると、もっと大きいような堀がね、埋まっている可能性もあるのかな
と。堀っていうのは、二重・三重に巡るとこもありますので。で、あと戦国時代の城館で
も土塁の外側に大きい堀が掘つてあつて、内側に小さい堀が掘つてあるということがよく
あります。もしかすると、この大きな建物の下に、そういった大きい堀が埋まり込んでい
ないかどうかということも、これ非常に気になりますね。

(酒井課長) それであの、記憶上の図面なんですけど、「東公園幻想図」というのが…。大分
お年寄りなんですか、描いた方は…。

(佐藤教育長) 昔の「東公園」を思い出して描いた方の。ただ、東西南北がちょっとね。ち
よつとこう、どうかなあという。

(酒井課長) と、いうところもあるんですが、その中にですね、ちょうど真ん中に水路が入
っている。

(佐藤教育長) 何か、池あるんです。

(酒井課長) 池があつたりしてですね。

(佐藤教育長) 果たして後から造った用水路なのか、いわゆる本来あつた何かを、沢からこ
う崩落してきたものを。Lみたいになった所に繋げてくようなものなのか分からないので
すが、東公園に池は何ヶ所かに。

(酒井課長) 何ヶ所かあつて、水路というものもあつた。ちょうどそれが本館・別館の辺り。
あくまで幻想図でございます。

(佐藤教育長) でも、あれはあんまり参考にならない。

(高橋委員長) いずれにしても、この本館。まあどの程度、ああやって現在地面より高くな

ってるけれども。下に残っている可能性は、あるわけだよね。あのコンクリートの下。

(佐藤教育長) この基礎、どの位はいつている？

(酒井課長) 基礎は1 mです。

(熊谷副委員長) どれぐらいの基礎工事やっているかでしょうが、多分堀だから残っている可能性はかなりあると思います。

(佐藤教育長) むしろ別館は、半地下式っていうのかな。一回下げて掘って、その中にまた基礎をやって。

(熊谷副委員長) 東京都方式みたいになって。

(佐藤教育長) ただ、本館の東方は、東側、いわゆる堀側は、地下通路とか何かがあって、あちらはちょっと確認できなかったのですね。残っているとすれば、本館の西側寄りの舗装されている道路あたりの下に、あるいはと思うかもしれませんが。ちょっと掘ってみなければ分かりません。

(熊谷副委員長) 事務局にお尋ねしたいのですが、先ほど係長おっしゃったように、この経緯を拝見しますと、今年の8月25日に業者の方に対して「取得についての市の考え方を説明」とありますが、将来的にこの部分の土地について、どのようにお考えになっていて、その考えに対してこの委員会のある程度判断を必要とするのかどうか、ということはどうでしょうか。

(佐藤教育長) 資料No.4 参考資料の3ページ目ですか。これからここが確実にどう使うとか、それからどうしたいかということについては全く予測がつかないんです。ただ、言われているのは、譲渡価格「6億6千万という有償譲渡の申し出があった」。で、それに対して市では、買う買わないの前提として、この擁壁についての補修が必要かどうか。必要であれば、以前にあそこに別の構想があった時に、擁壁の補修費は、調査費で大体1800万とか2000万とかいうのですが、あの擁壁は6億くらい掛かる。そして、あと土地価格。そうすると、とんでもない巨額になるんですね。そういうことで、まずその前提として今回は試掘をやらせてくれということと、それから購入する場合でも、いわゆる今の土地の不動産価格、鑑定価格から、擁壁の補修費を引いたものじゃなきゃだめだということでも回答して、その後調査してここには遺構がありましたよと、ということでも回答して、今後買う買わない、それから保存すべきかどうかということについては、まだまだそこまでは答えは出ていないという状況です。ただ基本的には今、所有が民間の企業のもので、少な

くとも市としてこれだけの巨額を出して、基本的に買えない方向に私はあろうかと思いませんけれども、ただ今後開発行為等が入る場合については、きちんとした調査はやって下さいねと。当然そうすると記録保存という形になるかもしれませんが。仮に開発が入るにしても、全部が一体として一式で全面入るかどうか、あるいは切り売りになるのかどうか、そういったところについての今後の見通しというのは全くまだ立たない。

(熊谷副委員長) 今、教育長さんから説明いただいた、その資料の中にありますように、この保存検討委員会としてですね、結果を報告いただいたわけでありますから、評価をある程度しなければいけないと。そうなりますと報告ではなくて、協議としてですね、改めて提出していただいて、叩き台となるような今回の部分についての報告書と言いましょか、そうした報告文に対して担保するような意見を述べるというふうな扱いではいかがでしょうか。ちょっと、今のようなお話ですと、単に報告を受けてですね、「はい分かりました」というようなものではないかと思うのですが。これは各委員の方々にご意見を聞いていただきたいのですけれども。随分やった経験のある人もいるでしょうから。

(関委員) うち(二戸市の側)は、補助事業しかやってないから。単費で6億ってすごい金額ですよ。擁壁の補修ってのは、必ず必要となるわけですか。

(佐藤教育長) これはちょっと私らでは分からないのですけれども、建築のセクションの話によると、やっぱり必要があるっていう判断です。それが全面的かどうか分からないのですが、少なくとも調査して強度をきちんと算定してということで、工事をすれば、前の構想があった時には6億という数字が出ております。取得して、擁壁を面倒見て、10億以上になってしまう。それは、単費としてはちょっと…。

(高橋委員長) まあ、一応は今回の試掘で幾つかは遺構が残っているのがはっきりしたわけですが、実際以上に、本体のあの建物もまだ実際に残っているという状況の中で。

(佐藤教育長) 現状でまだ解体がどこまで進むのか、それがちょっと分からないのですよね。

(熊谷副委員長) その本館部分の布基礎みたいなのを全部取り払って、更なる埋文の調査ができて、評価できるようなデータが集められるのか。あるいは現状に近いような形で判断をしなければいけないのか。その判断というのは、何と言いましょか、貴重なものが発見されたからというよりは、いま教育長さんおっしゃったように、きちんとした、開発行為に対しての埋蔵文化財の調査が現実問題としてできるか、どうでしょうね。そういう所を補助金を導入して、どうのこうのという話でもないと思う。

(佐藤教育長) 今回の調査にしても、所有者ではなくて、解体の委託を受けている受託者が売買交渉権を得たということで、何かその、本来の手順とかからするとノーマルではない。

(酒井課長) 普通ですと、「開発行為がありますよ」、それで「私たちが試掘をします」ということになりますが、まだ開発の届出は出ておりません。

(熊谷副委員長) 出てないのですね。

(佐藤教育長) ですからまず今日ご指導いただきたい部分へのお話あったように、きちっとした、今日まず概報っていう形で図面とか、まずは付けてお話しているわけですが、確かに試掘の概報みたいなのをまとめる必要があると思います。今回の試掘から見えることと言いますか、可能性としてこの事は推論、あるいはこの辺についてはこんな風な捉え方で良いんじゃないとか、その辺ちょっとこう出していただけると、私らもこれからやっぱり方策考えていく時の一つの手立てになるのかなと思いますけどね。

(高橋委員長) 報告あったような形では、一応、いま質問等があって、それ以外のまだいろんな不確定要素があるので、この段階ではまだ委員会としては、そういう報告を受けたということだけでいかがでしょうか。

(熊谷副委員長) …ということ、だけでしょうね。今回はね。

(高橋委員長) ええ、今回は。あくまでも今回は、試掘結果についての報告を得たけれども、それ以降のいろんな要素については、まだいろいろこれから検討する可能性もあるわけですから。そういうところで委員会としては、この上部平坦地の調査の報告は受けたということで、今回は。ということはいかがでしょう。

(熊谷副委員長) ただ、あのきちんと市の方で今後の対応について公表しなければいけないような状況になっているのであれば、その市の姿勢を担保するような形で、この委員会が意思表示をすることが必要なのかと。そうであるならば、今日は委員長おっしゃったように、報告をいただいたわけでありましたが、その報告について次回は分析あるいは評価というような形で協議した上で、この委員会としてのものを出すことができるのかどうか。出した方がいいのかどうか。この辺はちょっと委員長と市の方で少し検討していただいでですね。

(佐藤教育長) まあ、確かに今日ちょっと概要を報告して、すぐ、ああだこうだというのはちょっとこう、難しい。時間的に難しいと思いますけどね。

(熊谷副委員長) 今日の扱いについては、やっぱり委員長おっしゃる通り、報告していただ

いたというのを踏まえて、次回なりしかるべき時に、きちんと報告に対するこの委員会としての態度が必要なのであれば、協議案件として提出していただいて、意見を具申するなり、そういった形で対応するのだと。これは、結構急ぐ話なのですか？

(佐藤教育長) 先が見えないんですよ。つまりこの後、あそこがどういう風が変わっていくのか動きが掴めないんですよ。ただ市として取得はどうなんだという風なことで、この前言った通り、買い取りはできないものと考えているって結んでいるので、この基本的な市の態度は、まずこうですね。

(熊谷副委員長) それと、この場所に対する評価っていうのは、また違うレベルの…。

(佐藤教育長) そう、そうですね。

(高橋委員長) そういうことで、いま報告として、伊藤家の問題と、下堀と平坦地についての試掘調査結果について報告を受けたということで、この4番を終わらせていただきます。次の5番の協議に入りますが、平成28年度花巻城跡内容確認調査の実施についてご説明をお願いします。

5 協 議

平成28年度花巻城跡内容確認調査の実施について

(事務局から説明) 資料No.5

(高橋委員長) これから調査をする二之丸についての内容確認の調査報告を受けたわけですが、ご質問等…。あの上のは、整地層と考えて良いの？それとも？

(酒井課長) はい。二之丸の南御蔵付近の場合、まず上の層、一番上でございます。で、多分その、この理解で行きますと、花巻城に関わる層といたしまして、この層(Ⅱ層)が載っている。ところが、この層もございません。この層(Ⅲ層)もございません。この層の下の礫層、粘土に礫を含む層がこの層の下に堆積している、というように考えています。ですから、まず表土を剥がしまして、この層の面で一旦遺構の残存がないかどうか確認した上で徐々に下げていく、というような調査になろうかと思っています。逆に言いますと、その分、ここまでの層がどうなったのかと。もしかしたら、花巻城…鳥谷ヶ崎城かもしれません、増築の際に何らかの地業を受けているというような考えも成り立つのではないかと思います。

(熊谷副委員長) 今回、南側の方に試掘のグリッドを入れているようですが、一番南側の方

に土塁の痕跡状の何か、ものは見られませんでしたか。

(菊池上席主任) ええ、それを狙って入れているところがあるのですけれども、その痕跡と思われるものは確認されておりません。

(熊谷副委員長) このⅡ層は結構固い？ さっきスコップが立たないって言ってたけど。

(菊池上席主任) ええ、ですから表土を掘っていけばすぐ手応えで、そこの層に至ったというのは分かる。

(熊谷副委員長) ただ版築されたようなもの、土塁として版築されたようなものではない？

(菊池上席主任) 先ほどの表土を剥いだ層が、それぞれのトレンチで全面的に見られるので、いわゆる土塁の構築土とは別のものであろうと。広域的に見られますので、土塁の構築土ではないだろうなというふうには考えるわけでございますけれども、如何せんトレンチはそれぞれ規模が小さいので、何とも分からないところもありますが、そのように考えます。

(酒井課長) 一番西側に設定しましたトレンチではですね、同じⅡ層面がやや汚れているな気がしました。その他の部分より。ですから、南御蔵に関わる何か遺構が見つかる可能性もあるのではないかと考えています。

(熊谷副委員長) どこが汚れているのですか。

(酒井課長) こういう褐色土の広がり。他の部分では、これ(灰色土)が一面にどっと出てくる。

(熊谷副委員長) 普通のⅡ層がね。

(酒井課長) で、最後のトレンチですと何かこう、この辺が汚く見える。黒く汚れている。何か彼にかのこういうものの中で、南御蔵の痕跡が見つかるんじゃないかという…。

(佐藤教育長) このⅡ層は敷かれたものではない？ 本来のもの？

(酒井課長) いえ、敷かれたものです。

(熊谷副委員長) 敷かれたものでしょう。整地層だねえ。

(佐藤教育長) 下の層(Ⅲ層)全部すっぽ抜けて、そして更に他から持ってきて敷かれた。そうすると、すっぽ抜けた部分というのは…。

(酒井課長) 土塁になっているのかもしれない…、ちょっとそこまでは分かりませんが。

(熊谷副委員長) 可能性はあるね。この土の何かこう、ポツポツと変なの入っている。

(佐藤教育長) ここはまだ、いわゆる東御門の一部になりますか？

(酒井課長) 東御門といいますか、東御門を構成する土塁が入ってくるころだと思います。

枡形になる。

(佐藤教育長) 枡形に。それから、この道跡は生きているの？

(酒井課長) 生きています。この状況で道跡が確認できるかどうかと。

(熊谷副委員長) III層の上面っていうのは結構イレギュラーしているのですか。少ししか掘っていないんだけども。

(関委員) サブトレンチ一つくらいなものね。

(菊池上席主任) そうでもないですかね、割と平坦に見える。勿論、礫なんかがありますから、その影響受けて若干起伏はありますけれども、ほとんど同じくらいのレベルで出るんじゃないでしょうか。掘ったところが如何せん少ないというのもありますが。

(関委員) 全部のトレンチにサブトレ入れたんですか？

(酒井課長) いえ一ヶ所だけです。

(熊谷副委員長) その、III層の上面がね、結構でこぼこしているので、それをII層で平坦に均して整地したかな…。

(高橋委員長) その辺が全然みつかってないから、結構一旦取って、そこに固い面を、きっちりとした面を造っているんじゃないかなっていう気がするけれども。

(酒井課長) 一概には言えませんが、因みに、上部平坦地におけるちょっと古いんではないかと思われる堀底と今回のII層を取った面というのは、同じではないかというふうに思います。

(高橋委員長) まあ、最初からすぐ試掘から御蔵がそのまま出てくるわけではない。今後、期待したいと思いますが、その他。

(熊谷副委員長) 今後の調査に際してですね、例えば室野さんにお聞きしたいんですが、この南御蔵は恐らく掘立じゃなくて礎石建ちの建物。まあ、礎石は無くなったとしても、根石が残っていて…。

(室野委員) ええ、根石が残る場合もあるでしょうし、盛岡城だとですね、土蔵の側の柱が立ち並ぶっていうですね、立ち並ぶ所の下に、要するに大きな石を敷きますよね普通、土蔵ですと。その下を更にこう、何10cmか溝状に掘り窪めて、そこに土とか砂利を入れて固めて、いわゆるその坪地業みたいな形でやった痕が出てくるのですよ。そういった下部の構造は、たぶん土蔵があったんであれば、相当な工事をしていると思いますので、そういった土の違いをちゃんと見ていけば、土蔵の平面形くらいは明らかになるのかなというふ

うに思います。

(熊谷副委員長) 土蔵か、板倉か。板倉もそういう規模？

(室野委員) 板倉っていうの、私ちょっとやったことないので、分からないです。板倉だともう少し簡素な。

(関委員) 礎石建ちなんだ。

(室野委員) 板倉も礎石じゃないですかね。

(酒井課長) なにせその、どのような土蔵が建っていたかという情報は全くございませんが、一応和賀稗貫二郡の米の蔵でありますので、それなりの造りはあったのではないかとは思っています。

(高橋委員長) 私はむしろ、この今検出された面が非常に固い面で、きちんとしてるんで、御蔵の近くはかなりの大土木工事で今の面があるんじゃないかって考えたほうがいいんじゃないかなと思いますよ。他のところとは違って、御蔵の面だからああいうような固いきちんとした造成工事をしている。

(関委員) 枡形の内側まで入ってくる可能性はないのかな、微妙だもんな。土墨も分からないし、枡形の内外っていうの、ちょっとね。

(中村委員) もうちょっと西側をやってみないと分からない。

(関委員) 坪掘りだもんな。

(熊谷副委員長) 坪掘りでは、分からん。

(佐藤教育長) 位置的にどうですか、このL形で、一発目。もう少し場所、こっちの方良いんじゃないかとか。

(熊谷副委員長) あの、掘ったらすぐ終わりだよ、これね。要するにⅡ層をまず検出するだけの。どれぐらいやれるんですか？雪降るまでかな。

(村田係長) 1ヶ月程度ということで当初計画しておりまして、それで補助事業を導入してということで。事業費的にも1ヶ月程度の調査費で申請しております。

(熊谷副委員長) もしあれだったら、広げる？Ⅱ層の面で。

(室野委員) 余力があるのであれば、多少広げて。

(熊谷副委員長) 1ヶ月はかからないよ、今のこのL字だったら。

(中村委員) 要はその、Ⅱ層のところで止めて、ダーっと平面広げるか。あるいは坪掘りでもいいから少し下げて、所々下げてみるかっていう調査になる。

(熊谷副委員長) その、例えば遺構検出だと、さっきの話だとやっぱり下まで下げないとね。Ⅱ層剥がないと分からないっていうでしょ。ただ、Ⅱ層が盛土、整地層であるのであれば、その範囲をまず押さえてっていうのが最初だとすると、このL字を超えて、例えば南御蔵の建物に沿ってこう、北側に向かってこう…。

(関委員) 長いトレンチで。

(中村委員) 長いLにする。もしこれぐらいの浅さであれば、確かにすぐいってしまうから、そこで止めるっていうんだったら、長いLで端っこまで、北側まで行くことはできるかも。

(熊谷副委員長) Ⅱ層下げて、下のⅢ層の面で遺構確認するよりは、まずこのⅡ層の範囲を押さえて。

(高橋委員長) できるだけ広げてね。期間の範囲の中でね。

(中村委員) Lの西側を長くして、北側に延ばしていくっていう。余力の関係があるんでしようけども。もし何も遺構とか、重大なものに引っかからないのであれば。あるいは、根固めした石とかが出てくるようであれば、その辺で止めて少し精査する。

(高橋委員長) ということで、一応こういう形での調査を進めて、あとは進捗状況を見ながら、予算等もあるでしょうから。ということで、基本的にはこういう内容確認調査で進めるということよろしいでしょうか。

(佐藤教育長) 大体いつから？

(村田係長) 今月の半ばあたりか…。

(酒井課長) 下旬からです。塀一部壊して、フェンス付けなくてははいけません。

(高橋委員長) それでは、以上をもちまして協議を終わらしていただきたいということよろしいでしょうか。では、一応今日の報告と協議・その他について、県の教育委員会から佐藤文化財専門員に来ていただいていますので、色々ご指導いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(佐藤専門員) はい。お疲れ様でございます。県教委生涯学習文化課で文化財専門員をやっております佐藤淳一と申します。埋蔵文化財の方の担当で、4月から着任してございます。よろしく願いいたします。本日、花巻城跡調査保存検討委員会ということでございまして、中長期的な計画に基づいて遺跡の価値等について明らかにして、今後のあり方についての方向性といったものを探るべく、活発にご議論いただいたものというふうに認識してございます。県といたしましても、必要に応じまして助言ですとか、あるいは国の機関・

文化庁等との仲介役といった形でお手伝いを今後共させていただければというふうに考えてございます。よろしくお願いいたします。

あと、もう一つでございますけれども、いわゆる震災から5年が経過いたしまして、徐々に復興の方も進んできておるところでございます。花巻市さんにおかれましては、特に県の方から委託をお願いいたしまして、発掘の調査でありますとか整理といったようなところのいわゆる後方支援をお手伝いいただいております、非常にその点に関しましてこの場を借りてですけれども、感謝申し上げたいと思います。ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。以上でございます。

(高橋委員長) ありがとうございます。

6 その他

(村田係長) 佐藤淳一さん、ありがとうございます。それでは【次第6 その他】でございしますが、事務局では特にご用意してございません。皆様からございますでしょうか。

7 閉 会

(村田係長) それでは、長時間に渡りましてありがとうございます。以上をもちまして平成28年度第1回の花巻城跡調査保存検討委員会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。